

平成27年度3月宝保育所実験速報

平成 28 年 5 月 22 日

植村憲治

実験実施日

3月7日（月） 5歳児, 3月9日（水） 4歳児, 3月14日（月） 3歳児, 2歳児

年次別報告

5歳児 3月7日（月）

集団活動

4歳児を2名加えた8人で実施した。4人ずつの2班に分け、敬礼ごっこを両班一緒に実施した。「前から3人敬礼」、「前から2番目と3番目敬礼」等という指示をした。間違いが時々見られる程度に上達した。

個別実験

単元 束とバラ、増減、逆思考、次の次の数

教材 積み木 30 個、遮蔽板

実験内容

A：バラと束の比較を行う。積み木5個で1束にする。これまでと異なるのは、衝立で隠して、数秒しか見せず、積み木を数えさせない点である。1月と同内容で実施した。

B：増減の間。木から葉っぱが落ちたり、落ちた葉っぱが飛んでいったりするお話を聞いて、地面に落ちている葉っぱの枚数を答える。

C：〇〇ちゃんはリンゴを5個持っています。〇〇ちゃんは園長先生より2個多くもっています。園長先生はいくつ持っていますか。

D：2の次の次の数はいくつですか。

実験の目的と意義

A：束とバラで表された量同士の比較は、まず最初に束同士の比較から行うことを理解させる。小学校での2位数比較などの学習につなげる。

B：小学校での増減の学習につなげる。

C：小学2年以降の逆思考問題の理解につなげる。

D：数同士の関係を知り、足し算の理解につなげる。

実験結果

男児3人、女児3人の6人で実施した。

A：1人8問問うた。1人が、「3束とバラ1個」と「2束とバラ3個」を間違えたが、それ以外は全員が正解した。十分理解していると考えてよい。

B：一度に落ちてきたり、飛んでいったりする葉っぱは2枚以下とした。4問出したが、全問正解は2人、1問不正解は3人、2問不正解は1名であった。2,3回繰り返せば、ほぼ全員が正解する感じである。

C：例年より成績が悪い。正解者は2人であった。説明しても理解出来ない様子の幼児が1人いる。2枚と答えたのが、2人いる。4個と答えた幼児が1人。足して答を求めたのは1人であった。別の指導法も考える必要がある。

D：1人が1回目に5と答えたが、それ以外は全員正解した。次の次の数は理解していると考えられる。

考察

A：順序立てて指導すれば、束とバラの比較は出来るようになると考えられる。集団での指導法を考案したい。

B、D：間違えた幼児も何回か指導すれば理解出来ると思われる。聞いて答える問題なので、集団指導も可能である。

C：理解に時間のかかる幼児もいると考えられる。幼児にはむずかしいかも知れない。

4歳児 3月9日（水）

単元 A：音数と集合数・順序数、B：束とバラの比較

教材 A：タンバリンとカスタネット、積み木 8 個、B：インゴット型チョコレート 30 枚

実験内容

A：1月実験では、担任が、タンバリンを叩いた時は拍数個を横に、カスタネットの時は拍数個目を手元に、積み木をそれぞれ幼児に移動させた。逆に、担任が積み木をそのように移動させたときには、幼児に楽器を叩かせた。今回、問1では、2楽器のどちらかを担任が叩き、幼児に積み木を移動させた。問2では、逆に担任が積み木を動かし、幼児に楽器を選んで叩かせた。

B：チョコレート4枚で1束にした場合の束とバラの量の比較を行った。

実験の目的と意義

A：集合数と順序数の概念、数量の識別能力を調べる。

B：束数とバラ数を加えた値が等しい場合や、その値が小さい方の量が多い場合の幼児の理解度を食べ物を使って確認する。

実験結果

男児 6 人、女児 6 人の 12 人が参加した。

A：2名が実験中止となった。彼らには、題意が伝わらなかった。他に1名が、タンバリンの問を先に実施し、カスタネットの問は、後回しにした。問1では、叩く回数を間違えるのと、楽器を間違える間違いがあった。カスタネット2拍の後のタンバリン1拍の間では、よく理解している2人がカスタネット1拍の移動をした。

問1は、3拍までの実験がよいかも知れない。

積み木を見ながら叩く問2の方が、音だけを聞いて数量を決定する問1よりも正答率が高い。カスタネットを叩いたとき、拍数個の積み木を手元に移動する間違いがあった。

B：”2束”と”1束と3個”の比較の成績が極端に悪い。半数が初回、逆と答えている。”2束に”、2個加えて、”2束と2個”と”1束と3個”の比較は1人を除いて全員が正解している。

考察

A：順序数の問において、1人が、積み木をどう動かすのか全く理解出来ていない。個別指導法を考案する必要がある。

B：1月実験では4個1束で、”3束”と”2束と3個”の比較で半数以上の園児が逆を答えた。今回は5個1束であるが、”2束”と”1束と3個”で半数が間違えている。束数が1つだけ違って、バラの個数の差が大きい場合に間違えやすい。

3歳児 3月14日（月）

単元 数量の拍数表現と束の概念

教材 A：1/4切れのおもちゃのピザ6切れとお皿3枚

B：積み木21個

実験内容

A：ピザを1切れ～3切れ乗せた3枚のお皿を机の下に用意し、担任がどれか1皿を机に出して乗っているピザの切れ数だけ幼児に手を叩かせた。

B：塊にした9個の積み木を3個ずつ少し空けて横に並べさせた。次に12個で行い、どちらが多いかを問うた。

実験の目的と意義

A：数詞で数える前段階として、1個1個に対して、拍数を対応させる。

B：束とバラで表された量の比較の概念の第一歩として、分けて並べたもの同士を比較する。

実験結果

男児5人、女児3人の8人で実験した。Aを解答しなかった幼児が1人いたが、個数を尋ねたらいずれも正解した。他の問はA、Bどちらもすべて全員が正解した。

考察

A、Bともほぼ全員がすべて正解しており、もっと早い時期に導入してもよい遊びの作業と考える。

Bでは、最初積み重ねた幼児や、並べ方が乱雑な幼児が何人かいた。分かりやすく、見やすくなるように、丁寧に並べることも重要である。

2歳児 3月14日（月）

丸を指さすことと、積み木を並べること

すべて同じ大きさの、青い丸3個と黄色い丸2個が書かれているイラストを見ながら、青い丸や黄色の丸を指さしさせました。イラストの向きを変えて指さしさせました。まだ色の名前が分かっていない幼児が何人もいました。

次に5個の同じ大きさの直方体の積み木を与え、それらを並ばせました。適当に遊ばせて、最後にしまいましょうと言ったりして積み木を並ばせました。長く1列に並ばせたりもしました。

丸だけではなく、他の形状の物も用意する方がよいと思いました。